

鬱金桜の うこんざくら

たより

当館では、毎年四月中旬頃より鬱金桜が開花します。
その頃は、館の庭園を開放して、春のひとときを楽しんでいただいております。



歌文集『桐の花』より
北原 白秋
いやはてに
鬱金ざくらのかなしみに
ちりそめぬれば
五月はきたる
あひびきの
朝な夕なにちりそめし
鬱金ざくらの
花ならなくに

ぶらんこ

安西 冬衛

ひっそりとぶらんこが
花の樹かげです
鬱金ざくらの匂う
夜ふけです
ぶらんこは可憐
春の風流
おけしおく稚児は
今ゆめじです

【花の種類】

オオシマザクラ系のサトザクラの一種で、花はうす黄緑色で、花径は、一般の桜より大きく、四センチ前後。花弁は十枚から十五枚。開花して、四、五日たつと、花弁の内側からピンク色になり、やがて花のかたちのまま、軸ごと落下します。

【花のいわれ】

広辞苑によると、「鬱金」とは、シヨウガ科の多年草。根茎は止血薬、香料やカラー粉、沢庵漬の黄色染料。「鬱金色」とは、ウコンの根茎で染めた濃い鮮黄色。
……と記載されている。うす黄緑のこの花が、いつ頃から好まれていたのか不明ですが、安永六年（一七八〇）の書物「都名所圖會」には鬱金の桜が京都の御室の仁和寺に植えてであると載せられています。

【別名】

黄桜、黄金桜、などといわれます。



開花は四月中旬～下旬頃ですが、その頃お電話下されば様子をお知らせします。

吉備路文学館

お問い合わせ

岡山市南方3-5-35
☎ (086) 223-7411